

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 <input checked="" type="radio"/> 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）
技術名称	ガラスグリッド 担当部署 企画開発部
NETIS登録番号	KT-160100-A 担当者 荒木 和人
社名等	株式会社アークノハラ 電話番号 0287-62-6666
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>・「ガラスグリッド」はアスファルト舗装の破損の原因であるリフレクションクラックを抑制し、結果舗装の耐用年数を延ばすことができるリフレクションクラック抑制シートです。欧州・北米では30年来の実績があり効果も確認されています。現在、日本の道路状況は老朽化における維持修繕対策が急務になっており、「ガラスグリッド」を使用することで舗装の耐用年数が延びるのであれば、維持修繕におけるライフサイクルコストの低減が見込めるものです。また国の施策「国土強靱化対策」におけるインフラ整備網破損に対する予防・補強に効果を発揮するものと思われます。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>・強靱なガラス繊維をグリッド（格子）状に編みこんだものを特殊なアクリル樹脂でコーティングした製品です。ガラス繊維の強靱な引張強度と低伸長率によりアスファルトのたわみ追従性を高め結果的にクラック発現を抑制します。打替や切削オーバーレイ工法においてアスファルト層相互の中間に「ガラスグリッド」を敷設することにより、過大な交通荷重や環境負荷に起因するリフレクションクラックが舗装表面に発現するのを抑制し舗装表面を破壊するのを防止するものです。また、敷設路面はアスファルトに限らず路盤直上、コンクリート床板上に使用することも可能なタイプもあります。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>・ガラスグリッド無しに対し、有りではそのクラック抑制効果は約3倍を有します。 ・わだち掘れに対して通常の密粒アスファルトで25%削減、改質アスファルトやSMAとの複合ではその効果はさらに向上します。 ・施工方法において通常の舗装舗設の工程と同様にタックコートのみで敷設可能です。専用プライマー、副資材を使用しないため取り扱いが容易です。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>・アスファルト舗装、コンクリート床板上、路盤直上など敷設路面は多岐に使用可能です。</p> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 0 件（九州 0件、九州以外 0件） 自治体 28件（九州 9件、九州以外 19件） 民間 5 件（九州 0件、九州以外 5件）</p>

6. 写真・図・表

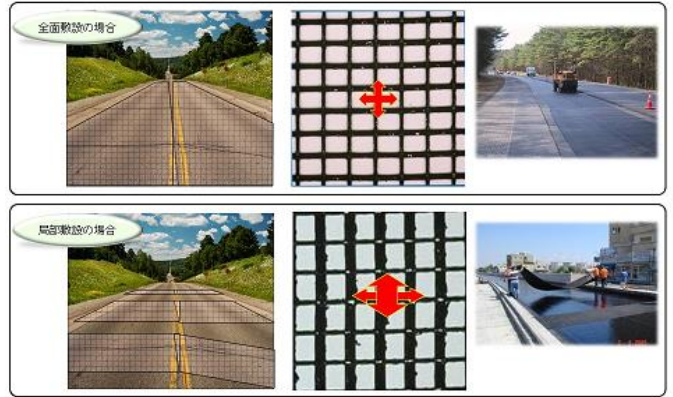
GLASGRID

GlasGrid®の【製品特徴】



製品特徴

GlasGrid®: 全面敷設 or 局部敷設



施工例

GlasGrid®の【製品特徴】…5つのポイント



製品特徴

GlasGrid® : 施工事例 (モニタリング)



【GlasGrid®施工有】及び【補強材無し】を比較実験(米国にてモニタリング)

25XX pages

モニタリング

GlasGrid®: 確かなノウハウ



各種試験